

「病める華」

ああ 病める華々よ
誰もが寝静まる頃
悪臭を放ち 歪な華を開
け

お前を照らすのは
不気味な 赤い月だ
不吉な夜に

独り 孤絶の溜息をつけ
愛され

朗らかに咲く花々に向
って

有りっ丈の毒念を嘔吐
せよ

誰もお前に見向きもし
ないのだ

生まれたことを呪うが
よい

病に侵された 邪悪な魂
は

錯乱を繰り返しながら

腐っていく

発狂寸前の

お前の悶える顔を見せて
ておくれ

ああ 醜くも美しい

その叫び声はまたとな
い歌だ

ほらほら 褒美だ

薬が欲しいか ほらやる
ぞ

ああ 病める華々よ

今宵も虚無の奈落へ 落
ちて行け